

1992.10/18(日)

PM4:30開場 PM5:00開演

つくば市ノバホール

劇団アルテ第四回公演・ミュージカル

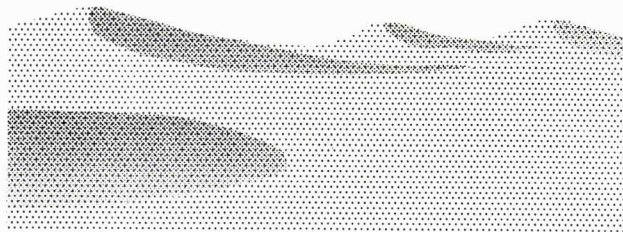
# 星の王子さま

原作／サン＝テグジュペリ

脚本・演出：藤枝 希  
振付：普入圭実子  
歌唱指導：堀部一寿  
音響：三浦雅秀

●後援

茨城県教育委員会  
つくば市教育委員会  
朝日新聞社つくば支局  
読売新聞社つくば支局  
毎日新聞社つくば支局



 Studio Arte 劇団アルテ

# 前奏～オトナになってみる麦畑

ごあいさつにかえて

劇団アルテ団長 白川部 恭子

「星の王子さま」とアルテが初めて出会ったのは2年前。  
あの時私達は、子供の純粹さに憧れ、  
金色に輝く麦畑に暖かに抱かれて夢を見ていました。  
そして、アルテは「星の王子さま」と再会することに決めました。  
今度は砂漠の中に麦畑を探しに、砂漠の中に花を咲かせに、  
砂漠の中に水を見つけに行きたいと思っています。  
雑多な中の雑多な思い。  
思いの粒が砂の粒になり、舞台の砂漠は輝きます。  
第1章の始まりです……。

## 砂漠の風景

脚本・演出 藤枝 希

『星の王子さま』——サン＝テグジュペリによって書かれ、50年にわたって世界中で読み継がれている童話。誰もが、子供の頃一度は手に取り「素敵な話だよ」と言うこの作品を、しかし私は、どうも好きになれませんでした。作中何度も繰り返される「オトナってものは…」「オトナには判らない」というフレーズは、私をいらいらさせるのです。

「子供は純粹で、自由で、真実が見えていて、彼等だけが真に生きていると言える。けれども年を取る毎にその輝きは失われていくのだ…」しかし、もしも子供の時代だけが真に生きている時間ならば、人生のほとんどは何と乾いた時間なのか—— そうではない、そうであってはいけない、そこから始まったのが前回の『星の王子さま』（'91.3月）でした。「子供でいよう」ではなく「輝いたまま、きちんと大人になっていこう」その方がきつと、ずっと素敵だ……。

それから一年半、今、私の目の前に広がるのは砂漠です。飛行士が不時着した砂漠、人の住むどんどこから1,000マイルも離れているその場所、乾き切って生命のかけらもない黄色い砂の世界。ふと気づくとそれはまるで私達を取り巻く現実そのものようです。何が真実かを知らうともせず、金や地位、名誉のために血眼になる欲の亡者達、あれ程なりたくないと思った「汚いオトナ」になっていく子供達……。物の豊富さと裏腹に枯れていく心の風景は正に砂漠です。沢山の人の間に居ながら本当の結びつきを持たない人々は、各々がその真ん中に不時着した飛行士です。動かない飛行機を前にひとりぼっちで立ちつくしているのです。あまりの孤独と渇きに耐えかねて求めるオアシスもただの幻。金、一時のバカ騒ぎ、刺激、流行の商品、薬、スリル……。そこに見つけるのは更なる砂漠です。おそらく、エグジュペリが見ていたのもこの絶望的な風景なのでしょう。そうしてそれを造ったのは「オトナ」です。「オトナ」なんか信じるに値しない!では、子供は?子供だっていつか年を取る、オトナになっていく。哀しむべき事実です。それが嫌なら時を止めるしかない。だから、エグジュペリの夢である「王子さま」はそうするのです。死、をもって。王子さまの死という形で終わるこの作品は、エグジュペリの絶望の深さを表しているように思えます。

けれども、私達は生きています。一分毎に年を取っていきます。その事を哀しみたくはありません。サン＝テグジュペリにしても、絶望が深ければ深い程、逆に人間を信じたかった筈なのです。だって飛行士は砂漠から生還するのですから。飛び立った飛行士の眼下に広がるのはやはり砂漠なのかもしれないけれど、でも私達は探せる筈なのです。そこにかくされた小さな、そして確かな泉を。サン＝テグジュペリ自身が遺した美しい文と共に。

## スタッフ

脚本・演出	藤枝 希	オーケストラ	
振付	普入 圭実子	指揮	堀部 一寿
歌唱指導	堀部 一寿	バイオリン	山根 万里子
			高角 千晶
音響オペレーター	三浦 雅秀	フルート	茅野 まりこ
舞台監督	羽田 正徳	クラリネット	磯崎 義英
ダンスミストレス	小泉 冴圭	ベース	金田 誠
メイク	真 亜 瑠	キーボード	勝間田 真理
ポスターデザイン	遠藤 淳子	パーカッション	岩村 直通

## キャスト

飛行士	吉原 憲一 (小谷 泰則)	地球の点燈夫	江塚 晶子 大久保 雅代 岡田 深雪 木沢 祥子 中条 朋子 寺島 悦子 林田 博之 牧島 直美 真船 雪子 渡部 木綿子
王子	宇野 希世子		
花	桜井 美保子 (中条 朋子)		
王様 うぬぼれ男 呑み助 実業家 点燈夫 地理学者	金子 静雄 小谷 泰則 白川部 恭子 小谷 泰則 白川部 恭子 金子 静雄	バラの花たち	大久保 雅代 岡田 深雪 木沢 祥子 白川部 恭子 中条 朋子 寺島 悦子 牧島 直美 真船 雪子 渡部 木綿子
へび	砂吹 京市 (白川部 恭子)		
砂漠の花	江塚 晶子		
キツネ	倉科 智位 (倉形 有子)		
スイッチマン コロス	金子 静雄 縣 秀平 秋山 直子 倉形 有子 田辺 陽一 (桜井 美保子)		

( ) 内はUnder Study

スペシャルサンクス

衣裳

萱橋 美奈子

# スタッフ紹介



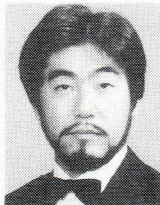
●脚本・演出：藤枝 希（転請）

1981年聖グレゴリオ宗教音楽研究所に第1期生として入所。その後吉沢演劇塾研究生課程を経て87年同塾塾生となり、88年の劇団「京」創立に参加。「プロポーズ」(ナターリヤ)「ロンドと夢と万華鏡」(スウ)「西の国は大騒ぎ」(オーナー)、「ロンドと～」では、舞台音楽も手掛ける。現在、劇団「京」にて俳優を続ける傍ら、同劇団主宰吉沢京夫による演出コースで学ぶ。つくばオペラフィオーレ「ヘンゼルとグレーテル」演出助手も担当。



●振付：普入 圭実子（転請）

三輝容子、望月辰夫に師事。(株)現代舞踊協会会員。ダンスシアターキュービック、望月辰夫ダンスリサイタル等、数々の舞台活動を続け、1981・1987年ニューヨーク研修。モダンダンス・オペラ・ミュージカル等の振付を手掛け、昨年10月には牛久市民センターに於いてオペラ「カルメン」、12月にはつくばダンスフェスティバルにて振付・出演。現在、ジョイフルアスレティッククラブ、ヒューマンライク総合学園ヘルス&スポーツ学院講師。



●歌唱指導・指揮：堀部 一寿(転請)

劇団アルテ公演では、第一回から、キャスト(カヤバ役)、舞台監督、指揮と姿を変えて登場している。今回の指揮で指揮者として定着か?最近、本業のオペラ歌手として開眼しつつあり。12月4日のつくばオペラフィオーレの「ヘンゼルとグレーテル」を、乞うご期待。チケット予約は☎0298-52-3721 ピアッツァ・アルテまで。

●フルート：茅野 まりこ

尚美学園短期大学音楽科卒業。フルートを増永弘昭氏に師事。普段は保母さんとして8人の赤ちゃん達のママ代わり。小4の時、銀色に輝くフルートに憧れてブラズバンドに入り、16年たった今もこうして吹いています。

●クラリネット：磯崎 義英

私の所属している団体の演奏会がノバールで行われます。今日のミュージカルと同じくらい来てよかったと思っただけです。筑波研究学園都市吹奏楽団⇒11月22日(日)、つくば学園都市オーケストラ⇒12月26日(土)

●キーボード：勝間田 真理

「ポラーノの広場」より劇団アルテに参加。詩、言葉、物語、メロディなど、今までと違った角度で感じる事ができ、世界が広がったような気がします。自分自身を意識しながら、いつも少しずついろいろな事にトライできたら…と思います。

●音響オペレーター：三浦 雅秀

今回で劇団アルテのオペレーターは4回目になります。個人的に今までいろんな音響を担当してきましたが、音というものを深く追求すると、最終的に生の生きている音ということに行きつきます。もちろん今回の芝居の音も生の音、オーケストラです。その生の音を100%みなさんに聞いてもらえるよう、全力でオペレーターします。これからも劇団アルテをよろしく。

●舞台監督：羽田 正徳

舞台の楽しさを知ってこの世界からでられなくなった1人です。多くの人たちにもこの楽しさをわけようと思ひます。

●ダンスミストレス：小泉 冨子

モダン・ジャズダンスを普入圭実子氏、クラシックバレエを戸嶋慶子氏に師事。現在、圭実ダンスカンパニー、エトワールバレエシアターに所属し、数々の公演に出演。踊りの楽しさ、美しさ、厳しさから、何かを感じてほしい…。

●メイク：真亜瑠

——Good luck and Good bye.—— 懐かしさと感傷にひたる間もなく時は過ぎる。なぞの(?)お助け人として君臨して早2年余り。プロとしてデビューいたします。腕の方はまあ、みてのお楽しみ。今後の活躍に期待して……くれるといいな。

●バイオリン：山根 万里子

星の王子さまは昔から大好きなお話。子どもの頃、母にバオバブの話をしてもらって、こわくてたまらなかった。でも、もしも今、小さな星に一人で住むことになったなら、なまけ者の私の星には、すぐにバオバブの木がいっぱいにはびこってしまうでしょう。そしたら木の上でバイオリン弾いて のんびり暮らそうかな。

●バイオリン：高角 千晶

あれ!?!なんか不協和音が聞こえてくるぞ!!と思ったら、私、高角の方を見て下さい。あなたはそこにバイオリンと格闘している私をきくと見つけるでしょう。確かバイオリンはやさしく奏でるはずですよ。

●ベース：金田 誠

1961年東京生まれ。1992年2月の「ポラーノの広場」で初めて劇団アルテに参加し、集中的にのめりこんだためその後数ヶ月音楽的にふぬけと化した。今後数ヶ月もきつとふぬけと化すだろう。でもこんな面白いことはやめらんない。まわりのみなさん暖かい目で見てやってください。

●パーカッション：岩村 直通

1964年生まれ、独身。劇団アルテ第一回公演「ジーザス・クライスト・スーパースター」にパーカッションで出演。今回の「星の王子さま」にも参加することができて、まことに光栄です。出演者の皆と共に皆さまの心に残る作品を創りたいと思います。乞うご期待。

# 団員紹介



吉原 憲一●新仕  
略歴。昭和46年、父・政憲、母・政江の長男として誕生。昭和48年、妹・夏江が誕生。<次回へつづく>

宇野 希世子●玗  
ぼく、この身体…持っていけないんだ、重すぎるからね。「こわれやすい」存在。10代最後の記念ダイエット。

桜井 美保子●花  
今日という日に この舞台に立てる私は 幸せだと思います。運命に感謝。

金子 静雄●珠●地聲者  
風に揺れる花をきれいねとあの人は言った。ボクは今まで何も気づかなかった…花が君には見えますか ——イルカ

小谷 泰則●うねり男●実業家  
私はモノを創るよりも、モノを作る方が性に合っています。皆さんはモノを創れますか？何かを創っていますか？

白川部 恭子●秘勲●点燈夫●バラの花ち  
訪ね人 —— 会いたい人がいます。はやくオトナになって会うんです。その人は私の夢をかなえてくれるのです。

砂吹 京市●ベ  
ただ、まともに歩けること、を

江塚 晶子●砂漠の花●地聲の点燈夫  
植物は たぶん、うれしさを知っている。そして たぶん、怒りを知らない。植物は、孤独を知っているだろうか。

倉科 智位●キツネ  
「目に見える気持ちのあらわれ」が必要なものもあるんだと思う今日このごろ。

縣 秀平●クロス  
クロスは「すべてを受け入れる“気”」であるが、これがなかなか大変なんだよ。俺ってこんなに狭量だったのか…

秋山 直子●クロス  
今ここにいるのが、まぎれもなく私。見て、聞いて、感じて……生きています。

倉形 有子●クロス  
はじめまして。これから、よろしくお願いします。

田辺 陽一●クロス  
水蒸気から雫を作る。雫は心にしみ渡り、やがて汚れちゃったこの星をすすぐだろう。

大久保 雅代●地聲の点燈夫●バラの花ち  
新人は 悩んで大きくなるのだ。

岡田 深雪●地聲の点燈夫●バラの花ち  
目に見えない栄養を沢山与えてくれてありがとう、楽しかった。

木沢 祥子●地聲の点燈夫●バラの花ち  
10月18日にかんばるぞ！というのが今の私の気持ちです。

中条 朋子●地聲の点燈夫●バラの花ち  
私の中の まっかな気持ちが集まって風の中に真紅の花が咲いているんです。

寺島 悦子●地聲の点燈夫●バラの花ち  
私にとって人生とは大きな舞台であり、主役である私を格好良く、より艶やかに演出したいだけなのです。

林田 博之●地聲の点燈夫  
普段から多大なるご迷惑をおかけしているアルテの皆さんに、この場を借りてザンゲしたいとおもいます。

牧島 直美●地聲の点燈夫●バラの花ち  
初舞台なので おどりの1つ1つに気をつけて、のびのびとやりたいと思います。

真船 雪子●地聲の点燈夫●バラの花ち  
帰りが遅くなるといつも送ってくれた暖かいアルテの皆さんを初め、協力して下さったすべての方に感謝します。

渡部 木綿子●地聲の点燈夫●バラの花ち  
♪～もーめ もめもめもめもめもーめ  
もめ～♡ (ポーズ)

堀畑 孝子  
体は小さいが 気持ちは、大きい

山崎 じゅんこ  
一生の夢、永遠の憧れ、尽きぬ欲望…そこに至りたいという願い。そして、努力。「届かぬ夢にならぬよう…」

休団者：井上美奈子・右城香苗・荏原美代子・岡野正之・北原亜紀子・清原つかみ・櫛田紀子・小松崎政江・鈴木幸子・樽井聡子・徳増里美・富田範子・内藤美千代・野田 真・林 正男・松本明子・安川香澄・吉津みさき